

「言語と人間」研究会（HLC）第43回春期セミナー開催要項

メインテーマ：ことばにとって「良さ」とは何か

- ◇ 日程：2018年3月3日（土）～3月4日（日）
- ◇ 会場：桜美林大学 四谷キャンパス（<http://www.obirin.ac.jp/access/yotsuya/>）
- ◇ 住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目1-12
（JR中央・総武線「千駄ヶ谷」より徒歩6分、東京メトロ副都心線「北参道」より徒歩5分）
- ◇ 参加費：

申込期日	参加費＜会員＞		参加費＜非会員＞	
2月18日まで（事前振込み）	学生	4,000円	学生	5,000円
	一般	6,000円	一般	7,000円
2月19日以降（当日支払い）	学生・一般	7,000円	学生・一般	8,000円
一日参加（当日支払い）	学生・一般	4,000円	学生・一般	5,000円

◎ プログラム（敬称略）

◇ 第1日目 3月3日（土）

- 10:00- 受付
- 10:20-10:30 開会式
- 10:30-12:00 ワークショップA/B/C（1）（分科会）
- 12:00-13:30 昼休み
- 13:30-15:00 ワークショップA/B/C（2）（分科会）
- 15:00-15:15 休憩
- 15:15-16:45 ワークショップA/B/C（3）（分科会）
- 16:45-17:00 休憩
- 17:00-18:40 研究発表
- 19:00-21:00 懇親会

◇ 第2日目 3月4日（日）

- 10:00- 受付
- 10:30-12:00 特別講義
「英語の動詞句削除と副詞の修飾ターゲット」

高見 健一（学習院大学）

- 12:00-13:30 昼休み
- 13:30-15:00 講義（1）

「『良い英語』としての標準英語の発達—語彙、綴字、文法を通時的・複線的に追う—」

堀田 隆一（慶應義塾大学）

- 15:00-15:30 休憩
- 15:30-17:00 講義（2）

「メンタルコーパスとは何か—英語らしさ、日本語らしさへの認知文法的アプローチ—」

西村 義樹（東京大学）

- 17:00-17:10 閉会式

◎ ワークショップ（分科会）のテーマ・講師名

※ ワークショップ A・B・C のいずれか 1 つを選択し、各々のテーマで学びます。

ワークショップ A：「話し言葉に基づく文法研究の手法と可能性」

遠藤 智子（成蹊大学）

作例や小説等の書き言葉ではなく、実際に話された言葉をデータとする研究は、録音・撮影機材の低価格化や軽量化等により多くの人にとって行いやすいものとなってきています。しかし、データを取ることは難しくなくても、そのデータをどのように分析し、どのような議論を組み立てればよいのかについては、悩んでいる人も多いのではないのでしょうか。本ワークショップでは、相互行為言語学の枠組みを中心として、話し言葉のデータに基づいた文法研究の手法とその発展可能性について実際にデータを検討しながら考えます。特に、文法的適切性の判断と、話者自身が持つメタ語用論的意識という 2 つの観点からことばの「良さ」について議論します。

ワークショップ B：「翻訳テキスト分析と多層的言語相対論

—言語にとって『良さ』とは何かをめぐる言語使用者の意識／無意識—

河原 清志（関西大学）

言語にとって「良さ」とは何か。この難題に対し、それは実在するのか、誰がどのように決めるのか等、「良さ」自体とそれを論じるイデオロギー性・相対性について、翻訳シフト分析を通して一緒に考えます（真善美論、正義論、規範論、メタ倫理学、解釈学、プラグマティズム、文学批評理論、仏教中観・唯識思想等も触れます）。ここでは翻訳シフトを三層で捉えます——原文＝翻訳のズレ（言語構造間相対性）、同一原文に対する複数の翻訳のズレ（言語内事態構成間相対性）、翻訳物と翻訳者言説のズレ（語用＝メタ語用間相対性）。

分析対象は日本アニメ英語字幕、村上春樹の翻訳と翻訳言説、『I AM A CAT』、オバマ広島演説、安倍首相の外交言語戦略、翻訳としての日本国憲法等。参加者には拙著「翻訳論入門」を参考資料として配布します。

ワークショップ C：「英語教材にとって『良さ』とは何か—英語教材制作の理論と実践—」

鈴木 希明（東洋大学・武蔵野大学）

日本の英語教育は、小学校での教科化、大学入試センター試験の改革（民間試験活用）、学習指導要領の改訂など、変革の時期を迎えています。このワークショップでは、英語教育の現状を概観したうえで、教育の現場で使用されている教材を分析し、「良い」教材とは何かを議論します。「高等学校卒業時に、生涯にわたり 4 技能を積極的に使えるようになる英語力を身に付ける」（文部科学省）ためにはどのような教材が必要かを検討し、具体的な教材企画をたてることを目指します。実際の教材制作の実状や課題などを紹介しながら、次のような構成で進めていきます。

- (1) 英語教育と英語教材の現状把握
- (2) 英語教材の分析
- (3) 英語教材の企画

◎ 申し込み方法

「言語と人間」研究会ホームページ (<https://sites.google.com/site/humanlinguisticscirclejapan/home>) にあるウェブ申込みフォームに必要事項欄をチェック・記入し、お申込みの上、下記の方法で参加費をお支払いください。なお、事前振込みと当日支払いで参加費が異なりますのでご注意ください。

➤ **事前振込み（締切）**：2018年2月18日（日）

➤ 2月18日（日）までにウェブ申込み、および参加費の振込を済ませてください（一日参加の方を除く）。

振込先・口座名：みずほ銀行 成城支店（店番号 445）

普通口座 1115796

HLC 春期セミナー実行委員会

➤ **当日支払い**

2月19日（月）以降にウェブ申込みの場合、参加費は春期セミナー当日に受付にてお支払いください。

- ・ 参加費には資料代が含まれますが、食費は含まれません。食事については、近隣のレストラン等がご利用いただけます。
- ・ 一度納入された参加費は、いかなる理由があっても返金いたしませんのでご了承ください。

◇ 主催：「言語と人間」研究会（HLC）

◇ お問合せ先：「言語と人間」研究会事務局

Eメール：hlc-info@googlegroups.com

ホームページ：<https://sites.google.com/site/humanlinguisticscirclejapan/home>

（付）第43回 HLC 春期セミナー研究発表（口頭発表形式）募集要項

本セミナーでは、研究の展望や可能性、現在進行中の博士・修士研究なども含め、ひろく発表を募集いたします。奮ってご応募ください。

なお、研究発表の内容を反映する論文を機関誌に投稿された場合、論文、または研究ノートとして掲載する方向で査読されます。

- 日時：2018年3月3日（土）（17:00～18:40）
- 発表資格：HLC 会員の方に限ります。非会員の方はセミナー当日までに入会手続きを行ってください。連名による発表の場合、筆頭発表者は会員である必要があります。
- 発表言語：日本語または英語。発表要旨（後述）は発表する言語で書いてください。
- 発表時間：20分発表、10分質疑応答を予定
- 発表申込み方法：研究会ホームページ内にある春期セミナーのページより「応募事項記入用紙」と「要旨執筆テンプレート」をダウンロードし、必要事項を記入の上、Eメールにて事務局（hlc-info@googlegroups.com）までお送りください（Eメール以外での申込みは受け付けません）。
- 応募締切：2018年2月10日（土）午後11時（必着）
- 審査結果の通知：2018年2月15日（木）までに応募者全員に通知する予定です。
- 応募要旨は、セミナー・ハンドブックにそのまま掲載されます。執筆の注意事項に十分にしがが、応募ください。

「言語と人間」研究会（HLC）

会長・篠原和子（東京農工大学）

<https://sites.google.com/site/humanlinguisticscirclejapan/home>